Functional Listening Index – Paediatric (FLI-P®)

ユーザーガイド FAQ

開発背景と経緯

リスニング指標-小児用（FLI-P®）は、日常生活における子どもの聞き取り能力の把握とモニタリングを支援するために開発されまし た。新生児から 6 歳までの子どものご両親、介護者、医療専門家のために開発されました。
HEARing CRC とシェパード・センターが 2013 年から実施した臨床研究に基づいています。保護者と専門家の指標となり、子どもが聴力や聞き取り能力を取得できるように、目 標やゴールの設定を様々な形で支援し、補聴器や人工内耳など支援機器選択の際の指針となる臨床ツールとして開発されました。リスニ ング力は音声言語とコミュニケーション能力の基礎となるため、子どもの早期聴覚機能が発達していく様子を見守ることで、今後の言語形 成における指標にもなります。
FLI-P® は、小児難聴の分野で正式に使用されている評価基準やツールを基に開発されました。
（本文書末の参考文献をご参照下さい）

FLI-P® の特性：

- *最初から最後までリスニング力の測定は 1 つの評価基準で対応*
- *難聴の程度や種類に関わらず、新生児から聞き取り能力を測定*
- *障害を持つ子どもやバイリンガル環境で育つ子どもの測定も可能*
- *難聴児と健聴児の聞き取り能力発達の比較測定*
- *聞き取り能力の発達に伴う、早期・中期・後期を含む包括的な リスト*
- *日常生活の中で子どもが機能的に聞き取れているかを評価でき る指標*
- *音を聞き取り、認識するというだけでなく、その音を判別し理解す*

FLI-P® は、片耳および両耳の難聴を含む、あらゆるレベルの難聴の子どもたちの臨床評価に使用されています。新生児聴覚スクリーニン グ検査や成長の過程で難聴と診断された子どもたちの審査、バイリンガル環境にある難聴の子どもたちや日本語以外の言語を話す環境 にいる子どもたち、そして障害を持つ子どもたちの審査にも使用されています。FLI-P® は、聞き取り能力の向上を目指す全ての子どもたち の指針です。

FLI-P® の有効性調査および研究の詳細については、以下までお問い合わせください。 enquiries@hearhub.org

実施方法

FLI-P® を実施できる人は？

その子どもをよく知っている親御さんや医療・教育の専門家に実施していただくよう設定されています。

Functional Listening Index の記入方法は？

子どものリスニング力について、1.1 から各設問に記入していきます。日付、子どもの月齢、記入者、そして点数を記録します。FLI-P® リスニング能力の経過のグラフに子どもの点数を記入し、進展状況を把握します。

各項目について不明な点がある場合は、項目の聞き取り能力に対する判断基準が記載されている「項目の詳細」を ご参照ください。

FLI-P® を実施する際の注意点は？

FLI-P® は聞き取り能力の測定です。特に指示がない限り、身振りや視覚からのヒントを提供しないでください。相手 を理解しコミュニケーションをとるために、子どもは無意識にあらゆる情報をヒントにします。特に毎日のやり取りでは視覚からヒントを得ることがよくあります。FLI-P® は特に聞き取り能力を判定する指針であるため、指差し、 ジェスチャー、視線、読唇、顔の表情など、他のヒントを提供しないことが重要です。

特に指定がない限り、静かな環境で、すぐそばで、通常の声で実施するようにしてください。

FLI-P® の実施頻度は？

FLI-P® は、現時点の能力の確認および、時間と共に向上する能力の経過を観測することができます。ですから、8〜12 週間ごとに実施するのがよいでしょう。リスニングやコミュニケーション能力の発達において気になる点がある場合、もっと頻繁に実施してもかまいません。また、6 カ月ごとなど、もっと長い間隔で実施することもできます。定期的に実施することで、子ども一人一人のリスニング能力の経過と進展についてより多くのデータを収集できま す。

どこから始めたらいいのでしょうか？

FLI-P® を初めて使う場合： 最初の項目（1.1）から始めてください。6 つの項目で連続して「まれに」にチェックが入るまで続けてください。FLI-P® を再度使用する場合： 前回、最初に「まれに」と回答したところから 4 項目前に戻り、そこから開始します。最初の 4 項目がまだ「大抵」できていることを確認し、前回「まれに」にチェックした項目があればそれを確認し、「まれに」のチェックが 6 項目続くまで続けます。子どもがその場で各項目のスキ ルを行う必要は

子どもがその場で各項目のスキ ルを行う必要はありますか？

いいえ。この指標は、子どもの現在の聞き取り能力を反映するように設定されています。子どもの聞き取り能力は変わることが多いので、最近数週間の様子で判断してください

その項目の内容を子どもがしたのを一度しか 見ていない場合は？

子どものスキルを「まれに」できる、あるいは「大抵」できるかで判断します。「まれに」というのは、一度や二度は見たことがあっても定期的ではないことを意味します。「大抵」は、その子がほとんどの場合、あるいは頻繁にできることを意味します。そして、様々な場面で、様々な人ともそれができることを意味します

一度もやっていな くても、「まれに」にチェックしてもいいのですか？

はい、大丈夫です

わからない、あるいはめった にしない場合、どうしますか？

不明な場合は、「まれに」に記入してください。

不明な場合はどうしたらいいですか？

「項目の詳細」のパンフレットには、何を基準に判断するのか、その確認方法が 記載されていますので参照してください。

聞き取り能力の審査にあたり、最低要件はありますか？

子どもたちは、言葉や音にを聞き、その経験を積み重ね聞き取り能力を身に着けていくため、一定の順番に沿って取得 していくわけではありません。

ある項目で「まれに」にチェックが入っていても、さらに下の項目で「大抵」にチェックが入ることもあります。「ま れに」にチェックが入る項目があったとしても、そのまま続けてください。「まれに」（またはできない）のチェック が 6 つ連続で入った場合、それ以上続ける必要はありません。

片耳難聴の子どもにも FLI-P®を使用できますか？聴性神経障害スペクトラム(NSD)、前庭水管症候群 (LVAS)、中耳に問題がある子どもや聴覚に問題のない子ども、難聴の可能性があったり、聴覚や処理 能力への懸念がある場合にも使用できますか？

はい、使用できます。このツールは、あらゆる聴力水準や聴力タイプにご使用いただけますが、子どもの障害の状況に 応じて、考慮すべき点があるかもしれません。例えば、片耳難聴の子どもで補聴器を使用していない場合、難しい項 目もいくつかあります（騒がしい場所での聞き取りなど）。

• ANSD の子どもは神経障害の特性に応じて、時間や日によって異なるスキルを提示することがあります。

• LVAS の子どもは、聴力が低下すると、できていたスキルができなくなることもあります。

• 耳に水が溜まっていたり、中耳炎にかかっていたり、中耳に問題のある子どもは、スキルの取得が難しかったり、時間がかかったりすることがあります。炎症を患っている時でも、聞き取り能力の経過を確認したい場合は、FLI-P® を試してもかまいません。もしくは、炎症が完治し、音声が一番聞き取りやすい状態になるまで待ってから、実 施することもできます。

• 難聴でない子どもや聴覚や情報処理に問題のない子どもは、様々な理由で異なるスキルを持っていることがあります。子どもの聞き取り能力について心配な点がありましたら、いつでも担当医または医療専門家にご相談くださ い

子どもが人工内耳を使用している場合、人工内耳の装着確認テストが終わるまで待つべきですか？

人工内耳で音が聞こえているか確信が持てない場合、音声信号の受理や音声の聞き取りを最適化するためにマッ ピングを行います。よって、FLI-P® はその後に実施することをお勧めします。

片方または両方の補聴器が壊れている場合でも、FLI-P® を実施した方がよいのでしょうか？

音がしっかり聞こえる状態、理想的には両耳から聞き取れる状態で、聞き取りを測定します。そのため、機器が壊れる前の状況で判断する、もしくは、機器が使用可能となるまで待つ、または FLI-P 実施中の機器の状態を記録しておく などして対応します。

子どもが私の顔をずっと見ていてもいいのでしょうか？

いいえ。特に指定がない限り、子どもが読唇術や他の視覚からのヒントを使わず、聞き取りだけでその能力を判 定するようにします。対面ではなく横に座ったり、他のものに注意を向けたり、目をそらすまで待ってください。

なぜ言葉ではなく、動物や乗り物の音を使うのでしょうか？

これらの音（擬音語）は、実際の言葉よりも長めで、音の高低や速さにも特徴があり、その多くは繰り返し発音 します。例えば、「犬」と「ワンワン」を比べると、「ワンワン」の方が長く、音を繰り返すので聞き取りやすく、 言いやすく、音響的にも楽しそうに聞こえます。よって、「ワンワン」 という表現の方が子どもたちは喜びます。

一度で答えない、反応しない場合、繰り返し言ってもいいですか？

もう一度言ってもかまいませんが、いつも一貫してできていることが確認できない限り、その項目の「大抵」にチェックを入れることはありません。繰り返したり、簡単にしなくても、子どもはその項目を達成できるはずです。

子どもの第一言語が英語や日本語でなくても、FLI-P® を使用することができますか？

FLI-P® は聞き取り能力を測定するものなので、使用する言語は重要ではありません。重要なのは、子どもがリスニング によって課題をこなせるかどうかです。子どもの母語を使って採点し、必要に応じて言語や言葉を修正してください。

子どもがバイリンガルである場合、どの言語を使えばよいのでしょう か？

子どもが話す言葉であればどの言語でもかまいません。どちらかの言語で、スキルが達成できていればチェック を入れてください。子どもは言語によって、聞き取り能力に差が出ることがあるので、注意してください。FLI-P® はリスニングを測定するものであり、「言語評価」の指標ではありません。

なぜ FLI-P® はテレビ、タブレット、携帯電話を使用するのですか？

デジタル音声の聞き取りは、生の音声を聞くよりも難しい場合があります。難しく、高度な聞き取り能力の発達を 確認するためにデジタル音声を利用します。 リスニングやコミュニケーションは普段の生活に必要なスキルであり、社会生活を営む上で基盤となるスキルでもあるため、それに必要な聞き取り能力の学習や評価は大切です。

現在のステージの項目をすべて習得してから次のステージに進むのですか？

いいえ。どのスキルにおいても、各ステージで重複していますし、スキル取得には個人差があります。子どもに よって、特に難しいスキルもあり、習得に時間がかかったり、習得できなかったりすることがあります。そのよ うな場合でも他の項目に挑戦し、次のステージに進むことは可能です

子どもが年齢相応の能力があるのか、判断できますか？

HEARing CRC、シェパード・センター、西シドニー大学 MARCS 研究所の Babylab、コクレア社との共同研究プロジェク トにより、正常な聴力児の聴力標準データを現在収集中です。このデータにより、新生児から 6 歳までの正常な聴覚 を持つ子どもたちの FLI® の各項目に対する発達予測年齢層が表示されることになります。ただし、FLI-P® のこのよう な標準的なデータが準備されるまでは、聞き取り能力発達予測について、コクレア社の Integrated Scales of Development (統合発達スケール)をご参照ください。(www.cochlear.com)

子どもの聞き取り能力の発達や進展状況について相談したい場合は？

人とのコミュニケーションに必要な聞き取り能力を向上させるために、音がしっかり聞こえていることが必要です。で すから、医療や教育の専門家と連携されることを強くお勧めします。

FLI-P® による子どもの聞き取りの進展や現在の聴覚能力判定について何かご相談がありましたら、担当の言語聴覚士、 もしくは enquiries@hearhub.org までお問い合わせ下さい。

子どもの年齢とは満年齢のことですか？

FLI-P® は、常に子どもの満年齢を使用するように設定されています。補聴器を装着した時点をゼロとする年齢の数え 方もありますが、聴力や聞き取り能力の発達に、補聴器が有用な情報を提供していると保証はできません。これはイ ンプラントにおいても同様です。 インプラントを装着したからといって、その時点で聴覚や聞き取りの能力を発達さ せるのに有効であるとは限りません。子どもの聞き取り能力は人工内耳プログラム/MAP をしながら時間をかけて発達してい くものです。難聴児の言語発達で認知されている標準的な測定基準と健常児における規範的なデータで進展を満年齢 で比較してみると、FLI-P® も同じような設定になっています。

もし、ある項目ができなかったら、教えた方がいいのでしょうか？

FLI-P® は、子どもが次にどんな聞き取り能力を向上すべきかの指針となります。とはいえ、FLI-P® の項目に合わせて教えることはお勧めしません(例えば、その項目の練習をするなど)。毎日の生活の中で、現在「まれに」と なっている項目が、その時点での聴覚スキルの妥当なゴールとなります。

FLI-P® はどのようなデータを基盤として開発されたのですか？

2013 年から個人やグループ単位のデータ分析が行われています。現在も FLI-P® を様々な用途で使用した多くの研究プ ロジェクトが進行中です。今後の共同研究や開発への参加を希望される方は、下記までご連絡ください。 お問い合わせ先 enquiries@hearhub.org

用語集

聴覚記憶： 耳で聞いた情報を記憶する能力

会話： 会話とは 2 人以上がコミュニケーションをと るための交流手段です。すべての話し手が会話が途切 れないよう会話に参加すべきであり、質問や回答だけ でなく、それぞれが自分の意見を述べることも大切で す。

聞こえる vs 識別する： 聞こえるというのは、「音 が耳に入ってきた」ということです。その音が何である か、その音が何か意味を持っているのか、理解している わけではありません。純粋に、音の信号が脳に到達した ことを認識するのです。その音が何かわかるためには、 まず聞こえている必要があり、次にその音の意味を理解 すると、子どもはその音が識別できたことになります。

区別： 2 つまたは異なる音の違いを聞き分けることが できる能力。子どもははっきりと聞き取れないかもしれ ませんが、選択肢が少ないので違いがわかるようになり ます。

イントネーション： 話すときの声の抑揚。

強調： 歌うような声を出すのと似ています。強調して 話すということは、子どもに話しかけるとき、音量を変 える（大きな声やささやき声）、音程を変える（低い声か ら高い声にする）、音の長さ（音を長めに出す）や、音や 言葉を繰り返して何かを言うことです。

リング 6 音： リング 6 音（リング氏が 1976 年に設定）には、低周波、中周波、高周波の音声が含まれ、通 常の会話の音声はこれらの周波の中に収まります。した がって、赤ちゃんや子どもが静かな環境で 1 メートル離 れたところからリング 6 音すべてを聞き取れれば、同じ 条件下（静か•距離 1m）で、音声を聞き取れると確信で きます。

リング 6 音とは、「ン」「ウ」「ア」「イ」「ス（ss）」と「シ（sh）」です。音声が聞こえているか、子どもの装 着している機器が正しく作動しているかを確認し、聴 力のずれを特定するためにリング音を使って定期的に 審査する必要があります。リング音の審査は、両耳 （両耳一緒に）、またはできれば片耳ずつで実施してく ださい（機器を右耳だけ、そして左耳だけに装着して 審査する）。赤ちゃんや子どもが 6 つの音すべてに反応 を見せない場合は、聴覚専門医に相談されることをお 勧めします。

聞き取りだけで： 視覚や触覚、その他のヒントなしで という意味。

大抵： あなたは、課題となっているスキルを子どもが持っ ていると確信しています。いろいろな人と様々な話題で、簡 単に頻繁にそれを行うことができます。

騒がしい場所： 様々な騒音が聞こえ、何を言っているのか 子どもが聞き取りにくい場所。例えば、子どもが遊んでいる 遊び場、会話が聞こえてくるカフェやレストラン、幼稚園や 教室、テレビやラジオが流れている部屋などです。

静かな環境： うるさい音の聞こえない部屋や場所。 テレビは消されており、冷蔵庫、エアコン、扇風機、人の話し声などの音もありません。カーペットが敷かれ、音を反響させる家具も少なく、残響音が響かないタイプの部屋や場所。

まれに： 子どもが必要な課題をこなせない、または子ども がこのスキルを取得しているかわからない状況です。まれ に、課題となっているスキルを実行できますが、頻繁に、ま たは簡単に実行できません。ある状況で特定の人と、または 特定の場所でのみ、課題となるスキルを実行できることも含 みます

歌うような声： 赤ちゃん言葉や幼児語とも呼ばれていま す。短い文章や繰り返しが多く、赤ちゃんや幼児の興味を引 くような高めの声を使った話し方です。このような声の方が 子どもは聞くことに、もっと興味を持ってくれます。

普通の声： 隣の人とおしゃべりするときに使う声です。サ ウンドレベルメーターで測定した場合、60〜65dB SPL を示 します

視覚からのヒント： 目で見たものが、子どもの聞き取りの ヒントとなることです。ジェスチャー（指差し）、視線（話し ているものを見る）、絵や読唇術などがあります。視覚から の ヒントは、普通の環境（騒音が聞こえる環境）の中での コミ ユニケーションで非常に役に立ちます。しかし、FLI-P® は、 視覚的サポートなしで聞き取り能力を評価するために設定さ れたツールです。よって、特に明記されていない限り、視覚 からのヒントを提供しないでください。

会話の中でのヒント： 相手が理解しているかどうか、時々 相手の顔を見て確認しながら会話をするというのは自然なこ とです。しかし、FLI-P® の場合は、子どもが視覚からヒント を得る機会をできる限り減らすために、子どもの向かいでは なく隣に座ります。この場合、あなたの顔をちらっと見るこ とはかまいません。しかし、ずっとあなたの顔を見なければ ならない場合は、読唇術に頼っていることになり、この項目 は「まれに」と評価することになります。

参考文献や 展料一覧

Auditory Skills Checklist, (2004) Adapted by Karen Anderson, from Auditory Skills Checklist by Nancy. Caleffe-Schneck, M.Ed.,CCC-A(1992).

Auditory Skills Program, New South Wales Department of School Education.

Archbold, S., Lutman, M.E., & Marshall, D.H. (1995). Categories of Auditory Performance. Annals of otology, rhinology & laryngology. Supplement, 166, 312.

Cochlear Limited, Integrated Scales of Development. (2009)

Cole, E.B, & Flexer, C.A. (2007). Children with hearing loss: developing listening and talking birth to six: Plural Pub. Estabrooks, W. (1998). Cochlear implants for kids: Alexander Graham Bell Association for the Deaf.

Joint Committee on Infant Hearing of the American Academy of, P., Muse, C., Harrison, J., Yoshinaga-Itano, C., Grimes, A., Brookhouser, P.E.,…Martin, B.(2013).

Supplement to the JCIH 2007 position statement: principles and guidelines for early intervention after confirmation that a child is deaf or hard of hearing. Pediatrics, 131(4), e1324-1349.

E., Martin, B.(2013). Supplement to the JCIH 2007 Position Statement: Principles and Guidelines for Early Intervention After Confirmation That a Child is Deaf or Hard of Hearing. Pediatrics, 131(4)

Pollack, D., Goldberg, D.M., & Caleffe-Schenck, N. (1997). Educational audiology for the limited – hearing infant and preschooler: An auditory – verbal program. Charles C Thomas Pub Limited.

Simser, J.I. (1993). Auditory-verbal intervention: Infants and toddlers. Volta Review, 95(3): 217-229.

Tuohy, J., Brown, J. and Mercer-Mosely, C., 2001, St, Gabriel's Curriculum for the Development of Audition, Language, Speech, Cognition, Trustees of the Christian Brothers, St. Gabriel's School for Hearing Impaired Children, Sydney, Nsw, Australia.

Walker B. (2009). Auditory Learning Guide.

FURTHER INFORMATION

お問い合わせは enquiries@hearhub.org までご連 絡ください。

項目の詳細

ステージ 1: 音に対する反応		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
1.1 大きな音にビクッと驚く	近くで突然大きな音（ドアがバタンと閉まる、手を叩く、床板に物が落ちる）がし た時、子ともは驚く、ビクッとする、又は瞬きをする、などの動作をします。	子ともに見られない場所から大きな音を立てて、反応を観察しましょう。驚いてビク ッとしますか？瞬きをしますか？ コツ：子どもの反応が視覚、感覚などに よるものでないことを確認しましょう。
1.2 歌うように話しかけると、こっちを見たり微笑んだりする	この声で話すと子どもはこちらを見る、微笑む、目を丸くする、じっとする、などの動 作をします。乳児は聞こえると、おしやぶりを吸い始めたり、止めたりします。	子どもを抱っこしたりそば'にいたりする時は、歌うような声で優しく話しましょう。子ど もが微笑んだり、あなたを見たり、表情を変えたりするか確認しましょう。 コッ：リズムやメロディー、抑揚をつけて話しかけると単調ではなくなり 聞き取りやすくなります
1.3 動物の声や乗り物の音を真似ると、 少なくとも 3 つ 4 つの音を聞ける	動物の声や乗り物の音の真似をすると、子どもは目を丸くする、瞬きをする、じっと する、振り向く、などの動作をします。例えば、車「ブーン」、猫「ミヤー」、救急車 「ピーポーピーポー」、アヒル「ガーガー」などです。音を出す「もの」が見えなくても音 がわかり、興味を持っていることが確認できます。	子どもが遊んでいる時に、子どものそば'で動物の声や乗り物の音を出すと、子とも が動きを止めたり、こっちを見たり、じっとしたりするか見てみましょう音を出した後 に、その音を出すおもちゃや絵を見せて「そうだよ、聞こえたね。犬だね」というように 教えてあげましょう。 コッ：もし聞こえていないようであれば'、自分の耳を指して、「よく聞い て」と促しましょう。子どもがじっと集中して耳をすます準備ができたら、 もう一度音声を繰り返しましょう。

ステージ 1: 音に対する反応

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
1.4 話し声や歌声、音楽を 20 秒~30 秒 間、音源がわからなくてもしっかりと聞く	歌ったり話しかけたりすると、あなたの姿が見えなくても、子どもは落ち着いたり、 はしゃいだりします。音楽や歌が聞こえると、おもちゃなど何もなくてもおとなしくな ることもあります。あなたが別室にいたとしても、歌ったり話したり、又は音楽が聞 こえていれば、子どもは安心します。	子どもがこちらを見ていない時に、優しく歌ったり話しかけたりしてみましょう。そして、 その反応を観察しましょう。子どもはじっとする、足をバタバタする、跳ねるように体を 動かす、手足を振る、笑って辺りを見回す、などの動作をするでしょう。 コツ：音楽をかけても OK です。音を長い時間にわたり聞くための能力 • を高めることは、注意力育成のために重要です。
1.5 強調して出したリング 6 音がすべて聞ける	子どもがこちらを見ていない時に「ン」「ウ」「ア」「イ」「シ（sh）」「ス（ss）」の音 を出し、子どもが聞いているのかその反応を見ます。 子どもは、じっとする、キョロキョロする、目を開ける、瞬きをする、目を丸くする、眉 を上げる、振り向く、などの動作をします。 音を出し始めたり止めたりすると、このような反応が見られます。非常に低い周波 数（ウウ）、中間周波数（アシ）、高周波数（イス）が聞けることを示しています。	子どもがおとなしく隣に座っていてこちらを見ていない時、6 つの音の 1 つを出して みましょう。子どもの反応は、目を丸くする、瞬きをする、じっとする、振り向く、動き を止める、見上げるなどです。 コッ：聞き取り易くするため、声を大きくしたり、リズムを変えたりしてみる . こと。例えば、、「イーイーイー」や「ウーウーウー」など。おもちゃで遊んでい たり、とても気になるものがあったりする場合、子どもが反応しない可能性が あり
1.6 音が出ている方向がわかる	別の部屋から子どもを呼ぶと、子どもはあなたの方を見ます。あるいは振り向いて、 誰が背後から話しかけているのか確認します。これは、音が聞こえる方向を正しく 認識しているからです。	子どもに話しかけ始めた時、子どもがあなたの方を見るか確認しましょう。音を聞くこ とが最初のステップですが、それがどこから来ているのか正確に把握することは、周 囲の音を識別する上で重要です。 コッ：誰かに別の部屋から子どもを呼んでもらい、子どもがそちらを見る • のか反応を確認しましょう

ステージ 1: 音に対する反応		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
1.7 ささやき声が聞き取れる	子どもがこちらを見ていない時にささやくと、見回したり、あなたを見たりします。	子どもが隣に座っていて、こちらを見ていない時に「パパパ」や「ハハハ」のようなやわ らかい音や子どもの名前をささやきます。子どもが動きを止めますか？キョロキョロし ますか？何の音か確認しようとしますか？ コッ：いろんな音の聞き取り、特に小さい声の会話を判別するため ■ には、様々な大きさの音を聞きわけるスキルは必要です。

ステージ 2 : 音と意味の関連づけ		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
2.1 話しかけると、声で返す	まるで子どもと「会話」をしているような感じです。子どもが喃語でやり取りするので （何かを話しかけると喃語で返し、さらにまた何か話すとまた喃語で返す）まるで 会話のようです。こちらが話し出すとそれまで発していた喃語を止め、話を止めると 再び喃語を話し出します。	子どもと一緒に座っている時に、歌うように話かけたり、喃語で話しかけたりして みましょう。 数秒話しかけたら、一旦やめて子どもの応答をみます。子どもが何 か声を出したら、それに対し返事をして、そして子どもがまた声を出すのを待ちま しょう。これは、相手の言葉を聞き、そして話すという会話の始まりです。
2.2 話しと歌の違いがわかる	あなたが歌うと、子どもは体を上下にゆすったり、腕や脚を左右に振ったり、一緒に 歌おうとしたりします。単に話したり、本を読んだりしている時の反応とは違います。	歌を歌い始める時に、言葉を話すことと歌を歌うことの違いを子どもが理解してい るか確認しましょう。歌い始めたり、歌をやめたりした時、子どもは動作を止めたり、 中断したり、他のことを始めたりする可能性があります。言葉や歌でやり取りするこ とは「言葉を話す•聞く」という会話の初期のスキルとして不可欠です。
2.3 最低 2 人の家族の声がわかる	姿が見えなくても、あなたの声や家族の声、身近な人の声がわかります。子どもの 機嫌が悪い時は、あなたの声なら落ち着くが、知らない人の声では機嫌はなおりません。子どもは他の家族や身近な人の声も認識できます。その人が話していた らそちらを向き、その人の声がしたら喜び、その人の声が聞こえたら笑ったり、機嫌がよくなったりします。	家族や身近な人に、子どもの名前を呼んでもらう、または話しかけてもらいましょ う。子どもが周りを見回すか確認しましょう。知っている人の声を聞いた時と知らな い人の声を聞いた時で、反応が違うかどうか比べてみましょう。違いはありますか？

ステージ 2 : 音と意味の関連づけ

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
2.4 テレビ、タブレット、電話から流れるお 気に入りの歌や音楽がわかる	お気に入りのテレビ番組が始まったり、大好きな歌が電子機器から流れだしたりす ると、子どもがはしやぎ出すことがあります。デジタル音は、人の声や、歌などよりも 聞き取りにくく、認識しにくいものですが、子どもがはしやぎ出すということは、デジタ ル音の意味を理解し始めたということです。	見えないところで大好きな歌を携帯電話やタブレットで流したり、お気に入りのテレ ビ番組をつけたりしましょう。子どもがそれに気づいたか確認しましょう。子どもは喜んだり、笑ったり、あなたを見たりします。または、音が出てくるものを見たくて探し、そ れが見つからなくて怒ることもあります。
2.5 童謡を 2~3 曲続けて熱心に聞くこと ができる、または大好きな本の読み聞か せに 2~3 分集中できる	童謡を 2〜3 曲続けて歌うと、じっとあなたを見つめたり、ニコニコしたりして聞きま す。 本の絵を見ながら話すと、2〜3 分位は集中して耳を傾け本を見ます。これは聴 覚と視覚の 2 つのスキルを使って、より長い時間集中出来るようになってきている ことを示しています。	子どもと一緒に落ち着いて座れる時に本を開き、ワクワクするような楽しそうな口調 で絵について語りかけましょう。2 分ほど集中できますか？もしくは 2〜3 曲の童謡 を続けて歌いましょう。集中して長い間聞き取る練習は、子どもの「音声聴取にお ける注意力」を発達させるのに役立ちます。 コツ：子どもが引き込まれるように、童謡を歌う時は 振りも付けましょう。
2.6 身近な音が何の音か知っている	身の回りの日常的な音を聞き分けることができます。例えば、チャイムが鳴るとド アを見る、車の音や犬の声が聞こえると外を見る、お風呂にお湯を入れる音が聞こえると見に行く、または逃げる、飛行機の音が聞こえたら空を見上げる、などで す。	子ともが見ていない時に、電子レンジに何かを入れて「チン」と鳴るのを待ちます。 子ともは電子レンジの方を見ますか？携帯電話が鳴った時にとあなたのバッグを探 しますか？これは、子どもが音に意味付けする最初の重要なステップの 1 つです。 コツ：友人や親戚にドアをノックしてもらい、子どもがドアの方を見たり、 そちらへ向かったりするか確認しましょう。

ステージ 2 : 音と意味の関連づけ

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
2.7 グループ 1 での会話で話している人 の顔を見る	グループで会話をしている時に、話している人を見ます。他の人が話し始めると、そ の人を見ます。	グループでの会話で、子ともが話している人を見るのか観察しましょう。他の人が 話し始めると、その人を見ますか？何人かが会話をしている時に、話者を見ます か？この機能的なリスニング能力によって、会話についていくために重要な音源の 認識力 （どこから音が聞こえているか）が発達します。
2.8 よく歌っている童謡を聞くと、次にくる フレーズや振り付けがわかる	例えば、「一本橋こちよこちよ」や「ららぞうきん」のような、くすぐりが登場する馴染 みの童謡を歌い始めると、くすぐられると分かって笑い始めるかもしれません。また、 「バスにのって」では、期待に胸を膨らませて倒れ込むかもしれません。	何か振り付けのあるお馴染みの童謡を歌いましょう。体を動かすフレーズで、子ども をよく観察しましょう。体を緊張させて準備していますか？笑っていますか？次にど うするか知っているという素振りを見せていますか？もしそうならば、、聞くことで「次に 何がくるかを予測する能力」が発達してきているのです。 コツ：「いとまき」や「だるまさん、にらめっこ」などアクション満載の童謡を 禄試してみて下さい。
2.9 顔が見えなくても、至近距離から普通の声で出すリング 6 音を全て 聞き取ることができる	リング 6 音を強調しないで普通に出すと、振り返ってあなたを見たり、やってい ることを中断したり止めたり、眉を上げたりすることで聞こえていることを示します。	子どもから 1 メートル以内に立ち、子どもが落ち着いていてこちらを見ていない時 に、6 音の内の 1 音を普通の話し声で出しましょう。聞こえたかどうか見て下さい。 全ての音を繰り返します。6 つの音声全てに反応したら「会話レベル」の音声を全 て聞き取れるということです。 コツ：あなたの顔が子どもから見えないこと、または何かに反射して映っ ていないこと、音の振動を感じていないことに注意しましょう。反応がな い場合は、耳を指して「聞いてね」と言い、期待に満ちた表情で合図すると よいでしょう。

ステージ 2 : 音と意味の関連づけ

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
2.10 声を聞くだけで、喜んでいるのか怒っているのかわかる	厳しい口調や怒った口調の言葉を聞いた時、子どもは動揺したり静かになったりす るかもしれません。明るい声を聞けば、、安心して笑顔になるかもしれません。	子どものそば'で厳しい口調で話したら、子どもはどのように反応するでしょう。いつも と違う声に動揺したり、違う声だとわかったりしている様子でしたか？明るい声に変 えると様子は変わりましたか？これは、初期段階の社会性が発達し、声のトーンか ら他人の感情を理解する能力があることを示します。 コツ：幼い子どもは、相手の 表情からも多くを読み取るので、聞いた声のみに反応していることを確 言認しましょう。
2.11 振り付けをせず、聞いただけで少なくとも 3 曲の童謡を認知できる	馴染みの童謡では、あなたが始めるよりも先に振り付けを始めます。「いとまき」や 「きらきら星」の歌では手を動かしたり、「幸せなら手を叩こう」では手を叩いたりする かもしれません。	一緒に座って、馴染みの童謡を歌います。子どもが自分で先に振り付けをするか 確認しましょう。歌に振り付けがない場合は、その歌に関連したおもちゃを取りに行 くかどうか見てみましょう。これらの反応で、歌を聞きわけていることがわかります。

ステージ 3 : 簡単な会話の理解

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
3.1 聴き慣れた 3 つの音の真似が、できる	子どもに話しかけたり、赤ちゃんと同じ声（喃語）を出したりした時、あなたの口元を 見ていなくても真似ができます。つまり「ママ」と言うと「ママ」と繰り返し、「パパ」と言うと 子どもも「パパ」と言います。他人の音声を聴いて、その聴いた音を自分の言葉や音声に当てはめることを「聴覚フィードバック・ループ」と呼びます。明瞭なスピーチを発達 させるために重要です。	子どもが言える喃語をあなたが言ってみます。そして、子どもが繰り返すかどうか 見てみましょう。「ママママ」と言って、期待した顔で見てみましょう。何もしなし喝 合は、もう一度繰り返し「次は〇〇ちゃんの番」と言って真似をするかどうか見て みましょう。次に違う喃語を試して、同じことをするか確認して下さい。 コッ：年上の兄弟や他の子ども達にも参加してもらい真似をさせてみましょう。
3.2 動作や身振りなしで単語や短い文を 理解できる	目で確認したり、説明したり、指で差したりしなくても、子どもは簡単な言葉や指示を理 解できます。「ママ（パパ・子犬）はどこ？」と聞くと、周りを見回してその人や物を探しま す。「さあ行こう」と言うと、立ち上がるかもしれません。「本を持ってきて」と言うと取りに行 きます。「ご、飯食べるよ」と言うと、ハイチェアに目を向けます。言葉に意味があることを認 識し始めているからです。	普段よく口にする言葉にヒントを与えず（それを見たり、体で示したりしないで） 言ってみましょう。子どもはそれを指したり、見たりしますか？それに手を伸ばしま すか？それともそれを取りに行きますか？
3.3 鳴き声など何かの音を 3~4 つ出した時に、何の音かわかる	動物やいろんな物の音を真似た時、子どもはその動物や物を見たり、指を差したり、その おもちゃや写真を取りに行ったりするかもしれません。例えば、、「犬はどこ？ワンワン」と言う と犬を探し回ります。「電車はどこかな？ガタンゴトン」と言えば電車を探しに行きます。	子どものそば’に見慣れたぬいぐるみやおもちゃをいくつか置きましょう。その中の 1 つ の音を真似てみて、子どもがどう反応するのか見てみましょう。それまでやっていたことを止めて探しますか？あなたに持ってきますか？

ステージ 3 : 簡単な会話の理解

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
3.4 自分の名前がわかり呼ばれると 呼んだ人を見る	子どもは名前を呼ばれると顔を上げます。あなたをまっすぐ見たり、誰が呼んだのか周りを 見回したりするかもしれません。他の名前を呼んだ場合は、同じ反応はしません。	子どもがあなたを見ていない時に、名前を呼びましょう。子どもがこちらを見たら手を 振って「名前、聞こえたね」と褒めたり、おもちゃを渡したりしましょう。 コツ：子どもが遊びに集中している時は、名前を何度も呼ぶ必要がある かもしれません。しかし、用もなく子どもの名前を頻繁に呼び過ぎ'ると、聞 こえても反応しなくなる可能性があります。
3.5 指で差さなくても、頼んだ物を 取ってくる	ジェスチャーや動作でヒントを出さなくても、頼んだものを 1 つ取って渡すことができます。 例えば、「ボールをちょうだい」と言うと、取ってきてくれます。	子どもの周りに見慣れた物（ミニカー、コップ、靴、ボール、ぬいぐるみ）を幾つか置 き、取って欲しい物を見たり、指で差したりしないで、言葉で取って欲しいと 1 つだけ頼みましょう。手を出して「ちょうだい」のしぐさを加えてもいいでしょう。
3.6 いくつかの言葉を真似して繰り返す	「ワンワンがいる」と言うと、「ワンワン」と繰り返そうとするかもしれません。「パパ が来たよ」と言うと「パパ」と言おうとするかもしれません。	子どもがあなたを見ていない時に、遊んでいる物について話しかけましょう。そして、あな たの言ったことを真似して繰り返すのを待ちましょう。例えば、、子どもが鍵を持っているとし て、あなたが「鍵を持っているね」と鍵を強調して言います。 子どもが何か言うのか待ちましょう。子どもが振り返ってあなたを見ても何も言わなけ れば、鍵を見せながらもう一度「そう、鍵だよね」と言ってみましょう。そして、「〇〇ち ゃんの番だよ（間を開けて）鍵だね」と言ってみて下さい。

ステージ 3 : 簡単な会話の理解

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
3.7 リング 6 音の「ア」「ウ」「イ」「ン」を明瞭に 繰り返す	静かな場所で子どもから約 1 メートル離れ、子どもがあなたを見なくてもリング 6 音の「ア」「ウ」「イ」「ン」を明瞭に繰り返すことができる。	静かな部屋で、子どもに真似して欲しい音があることを伝えましょう。子どもが見ていな い時に、いつもの声で音を出します。子どもが真似できるかどうか確認して下さい。あ なたの後に続けて「ア」「ウ」「イ」「ン」と言えるはずです。正しく真似ができるということ は、単に音が聞こえているだけでなく、音がはっきり聞こえていることを示しています。 コツ：音を長く伸ばしたり、音程を変えたりして聞き取りやすくしないようにしま しょう。
3.8 リング 6 音の「ス（ss）」と「シ（sh）」の違いがわかる	「ス（ss）」と「シ（sh）」の音を聞いた時、子どもは正しく真似ができていなく ても、違う音を出そうとします。また、「シ（sh）」の音を出すときは赤ちゃんが寝ている絵を見て、「ス（ss）」の音を出すときは「スイカ」の絵を見ることもあ ります。	子どもにあなたの後に続いて音を真似させましょう。「ス（ss）」の音を出して次に「シ （sh）」の音を出してみましょう。子どもの出した音に違いはありますか？また、スイカの 絵を見せながら「ス（ss）」、赤ちゃんが寝ている絵を見せながら「シ（sh）」と言っても よいでしょう。どの音がどの絵に合うのか理解できた後で、「ス（ss）」と言うとスイカを見 ますか？「シ（sh）」と言うと赤ちゃんを見ますか？ コツ：幼児は成長するまで、音をきちんと出せないことが多いので、発音でき なくても心配はいりません。音の違いを聞きわけることができれば'、異なる周 波数での異なる音を聞きわけることができるということです。
3.9 大好きな歌の中の言葉を口ずさむ	お馴染みの歌で最後の言葉の前で歌を止めると、子どもはその言葉を言いま す。例えば、、「咲いた咲いたチューリップの…」で止めると、子どもは「花が」と言 います。子どもの言葉は明瞭でないかもしれませんが、それに近い言葉を言います。	いつもの歌を歌いましょう。良く知っているフレーズの前で歌を止めて、子どもの方を見て みましょう。子どもがその歌の続きを言うのを待ちましょう。あなたが「おもちゃのチャチャチ ヤ」を歌っている場合、子どもは「チャ」と言えず•'に「た」や「あ」と言うかもしれません。

ステージ 3 : 簡単な会話の理解		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
3.10. 短い文や単語を 10 個理解できる	動作や身振りのヒントがなくても、短い文や単語 10 個を理解できる。例えば、帰 るときに（言葉だけで）「バイバイしようね」と言うと、手を振り始めます。「拍手し て」と言うと、手を叩き始めます。	よく知っている単語やフレーズを使いましょう。「チューして」「ゴミ箱にポイして」「お 風呂だよ」「こっちにおいで」などがそうです。動作や身振りなしで言ってみましょう。 子どもがどう反応するかで理解しているかが確認できます。
3.11 身近な人やペットなど、名前を 3 つ 知っている	「ママ（パパ、ばあば）はどこ？」と言うと、周りを探したり写真の中から見つけたり します。「ママ（パパ、じいじ）にこれ渡して」と言うと、指で差さなくても適切な人 に渡します。	「ママ（パパ、ばあば又はよく知っている人）はどこ？」と聞いてみましょう。子どもは その人を見たり指したり、その人のところに行ったり、探してみたりするかもしれませ ん。家族の写真を見ている場合は、その人を指したり、名前を言ったりするかもしれ ません。
3.12 騒がしい場所でも自分の名前が呼ばれ たことがわかる	カフェや幼稚園、お店などの騒がしし喝所で、3 メートルほど離れたところから呼ぶ と振り向きます。	お店や公園にいる時に約 3 メートル離れたところから、子どもの名前を 1 回呼んで みましょう。子どもは振り向いてあなたを見ますか？

ステージ 4 : 様々な状況での言語理解		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
4.1 その場とは無関係、又はおかしな短い 指示に従う	「帽子を耳につけて」「靴を頭にのせて」「足で拍手して」など初めて耳にするおかし な指示を出しても、身振りやジェスチャーなどのヒントなしで簡単にできます。	物を使って何か面白いことや変わったことを頼んでみましょう。（例：「靴を手に履く」「ボールを頭に載せる」「車をお風呂に入れる」）内容を 理解して笑ったり、何とかしようとしたりしますか？
4.2 歌で最初に出てくる振り付けのみでなく、それ以降の振り付けも知っている	歌詞と振りがフレーズによって違う歌（例：「ひげじいさん」）を歌っている時、振り を見せなくても、それぞれの歌詞に合った動作をします。例えば、手を顎に付け、そ の後次の歌詞で手を頬に動かすでしょう。歌詞の順番を変えてもできます。	「ひげじいさん」を一緒に歌い、子どものアクションを待ちましょう。フレーズの順番を 変えて歌い、子どもが歌詞に合った動作をするか見て下さい。様々な歌詞にあった 振り付けができるのは、曲を認識できているだけでなく、曲の歌詞を理解しているこ とを示します。 コッ：「グーチョキパーで」「げんこつ山のたぬきさん」などお馴染みの歌を 使って、さまざまな動きを試してみて下さい。
4.3 2~3 語の簡単なフレーズを繰り返す	あなたの後に続いて、2〜3 語のフレーズを繰り返すことができます。例えば、、「私の番」「こっち来て」「ドア開けて」などです。	よく使う簡単なフレーズを、後に続いて繰り返すかどうか見てみましょう。例えば、、「も っとちょうだい」「お風呂入る」「車で行く」「手洗って」「ねんねしよう」または「パパ、バ イバイ」などです。
4.4 よく聞く歌の一節を歌うことができる	少なくとも 4〜6 語以上の単語がある歌のフレーズを歌おうとします。単語がはっ きりせず音を出すだけだとしても、メロディーがあり一定のパターンがあるかもしれま せん。	良く知っている歌を歌ってみましょう。歌の最初のフレーズの後、あなたが歌を止め ても子どもは次の部分を歌いますか？ コツ:子どもに何か歌ってと頼み、反応を見ましょう。

ステージ 4 : 様々な状況での言語理解		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
4.5 頼んだ 2 つの物を持ってくることができる	「カバンと靴を取ってきて」や「ティッシュとスプーンをちょうだい」と言うと、二つのもの を取ってきます。	馴 1 染みのもの、身の回りにあるものを 2 つ取ってきてもらいましょう。2 つの物を覚え ることで聴覚記憶を育てることに繋がります。 コツ：指を 2 本立てて物の名前を言うと、2 つ必要だとわかります。
4.6 つの文で 2 つの指示を出し、 それに従うことができる	子どもに 2 つの指示を出すと、どちらもできます。例えば、「靴を持ってきてパパに渡 して」や「おもちゃを片付けてから、手を洗って」などです。	好きなおもちゃをいくつか子どものそばに置き、そのおもちゃで 2 つのことをしてもらい ましょう。例えば、、「テディベアにミルクあげてからベッドに寝かせてね」や「箱を出して ボールを入れてね」などです。
4.7 「リング 6 音」の全ての音を正確に 繰り返すことができる	子ともが見ていない時に、約 1 メートル離れた所から、後について 6 つの音を全 てはっきりと言えます。全ての音は明瞭で正確でなければなりません。	子ともは、少し離れた場所からでも相手の話を聞くことで言葉を学びます。1 メート ルほど離れて、こちらを見ていない時に、子どもに何と言ったのか聞いてみましょう。6 つの音を聞こえやすいように変えず、普通の声で 1 つずつ言って下さい。次の音を 言う前に、その音を子どもが繰り返すのを待ちましょう。
4.8 テレビやタブレット、スマホで聞く 単語やフレーズを繰り返す	子ともは、テレビやスマホ、タブレットで聞いた言葉を繰り返します。例えば、大好き なテレビ番組のフレーズかもしれません。	子ともと一緒にテレビやデジタル機器を見てみましょう。聞いた言葉を繰り返すか見 て下さい。あなたが先に繰り返して、子どもも繰り返せるか見てみましょう。 コツ：子どものテレビ番組やアプリには、子どもに質問をしたり、繰り返させたりするものがたくさんあります。

ステージ 4 : 様々な状況での言語理解		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
4.9 あなたの言葉をほとんど正しく真似 できる	あなたの言葉をほとんど正しく真似ることができます。ただし、「さ行」「か行」「ら行」 の音には問題があるかもしれません。	50 音を後について、繰り返すよう促しましょう。おそらく「さ行」「か行」「ら行」のよう な難しい音を除いて、ほとんどの音を発音できるはずです。
4.10 正確にすべてのリング 6 音を 3 メートル 以上離れていても繰り返すことができる	こちらを見ていない時に、3 メートル以上離れていても、後に続いて全ての音をはっ きり発音できます。	遠くから聞き取ることは難しいかもしれませんが、日常生活には必要です。子ども が見ていない時に、3 メートル以上離れて、子どもに何と言ったのか聞いてみまし ょう。遠く離れていても大きい声でなく、普通の声で 6 つの音を 1 つずつ言ってみ ましょう。次の音を言う前に、その音を子どもが繰り返すのを待ちましょう。3 メート ル離れた場所からこれらの音を全て繰り返せるということは、低、中、高周波の音 声を遠くからも聞き取れることを示しています。
4.11 テレビやタブレット、電話からの質問や 指示に従ったり、答えたりできる	好きなテレビ番組を見ている時に、番組内の質問を聞いて答えることがあります。 音声で質問するアプリにも答えることができます。音声で説明するアプリの指示に従うことができます。	デジタル音声を真似することは、人の声を真似することよりも難しく、デジタル音声 の質問に答えたり、指示に従ったりすることはさらに難しくなります。話しかけるアプリを使ったり、「次はどうなるかな？」「〇O はどこかな？」などの質問をする子ども番 組を見たりしている時、一緒に座るようにしましょう。 コツ：「命令ゲーム」を作るためにデジタル機器にいろいろな質問や指示 ・を録音しましょう。そして、子どもが従うことができるかどうかを 確認しましよう。

ステージ 5 : 会話や話を最後まで聞く		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
5.1 電話で身近な人の声がわかる	電話で知っている人の声を認識できます。電話の音声を聞くとそれが誰だかわかり ます。	良く知っている人（家族、親しい友人、先生）に電話をかけてもらいましょう。誰か らの電話かわかりますか？
5.2 どこで覚えたのか分からない驚くような 言葉を言う	あなたが直接言ったり教えたりしていない言葉や言い回しをすることがあります。子ど もから聞いたことのない言葉を言われると、「どこからそんな言葉を覚えたの!？」と思う かもしれません。	いろいろな言葉やいろいろな人の話を耳にすることで子どもは新しい言葉を覚えて いきます。保育園や幼稚園、公園で子どもがあなたや友達と話している時、その言 葉に耳をすませ、子どもを観察してみましょう。驚くような事を言っていますか？初め て聞く言葉や、普段は言わないようなことを言っていますか？
5.3 見える範囲にある「もの」の説明を する と、それが何なのかわかる	身近にある物、又は目の前にある物を説明すると、正しく推測できます。例えば、 「水の中に住んでいて、ヒレがあってスイスイ泳ぐのは何？」や、「外側につぶつぶの 種がある果物で、赤くておやつに食べたのはどれ」などです。	子どもの近くに幾つかの物（少なくとも 3 つか 4 つ）を置きます。その中の 1 つに ついて、その名前を言ったり指し示したり、それに視線を向けることなく説明しま す。例えば、「これは動物だよ。農場にいて、『モー』って鳴くよ。牛乳がでるよ」「こ れは丸くて、蹴ったり、転がしたり、投げたりできるよ」などです。説明しているものに、子どもが目を向けるか確認しましょう。それを取ろうとしたり、 探して取ってきてくれたりするかもしれません。
5.4. 見慣れた本で内容の説明をすると そのページがわかる	「ぐりとぐらのホットケーキができたところは？」「あおむしが蝶になったところは？」など と言うと、見慣れた本のそのページを探します。	子どもがよく知っている本を読むときは、あるページを説明してそのページを開いて もらいます。例えば、、「赤ずきんちゃんが森でオオカミにあったところ」や「大きなかぶ を全員で弓 1 っ張るところ」などです。

ステージ 5 : 会話や話を最後まで聞く		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
5.5 よく聞く歌をだいたい歌うことができる	自分の好きなおもちゃについての質問に答えます。例えば、「それ何？」「誰が買っ てくれたの？」「どこで買ったの？」「何ができるの？」「どうやって遊ぶの？」などです。 また、楽しかったことについての質問に答えます。「どこへ行ったの？」「何をしたの？」「誰と一緒だったの？」「その後どうしたの？」などです。	好きなおもちゃや、好きなことについて質問をしてみましょう。「これは何？」「これは 何ができる？」「どこで買ったの？」「どうやって使うの？」「それの何が一番好き？」な どです。
5.6 大好きなおもちゃや遊びについての 簡単な質問に答えることができる	自分の好きなおもちゃについての質問に答えます。例えば、「それ何？」「誰が買っ てくれたの？」「どこで買ったの？」「何ができるの？」「どうやって遊ぶの？」などです。 また、楽しかったことについての質問に答えます。「どこへ行ったの？」「何をしたの？」「誰と一緒だったの？」「その後どうしたの？」などです。	好きなおもちゃや、好きなことについて質問をしてみましょう。「これは何？」「これは 何ができる？」「どこで買ったの？」「どうやって使うの？」「それの何が一番好き？」な どです。
5.7 発音が似ている単語の違いを聞き取り、 それによって意味が，変わることを理解する	子ともは単語の 1 文字や 2 文字を変えると意味が変わることを理解していま す。例えば、「うま」と「うち」、「うた」と「かた」は別のものです。	似た発音の単語を幾つか考えてみましょう。例えば'、おかあさん/おばあさん、まくら /マフラー、かさ/あさ、などです。あなたが子どもに話す時に、このような似た音の単 語を使って、子どもが違いを理解するのか確かめて下さい。 子どもはあなたが違った使い方をした時に、何を言うでしょうか、どうするでしょうか？

ステージ 5 : 会話や話を最後まで聞く

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
5.8 頼んだ 3 つの物を一度に持ってくる ことができる	一度に 3 つの違うものを指示に従って持ってくることができます。例えば、、「お碗と コップとスプーンを取ってきて」「船と車と飛行機を片付けよう」「水筒と帽子とお弁 当をカバンに入れよう」などです。	コツ：多くのものを覚えることで、「聴覚記憶」のスキルを鍛えることができます。近く にあるものを 3 つ取ってきてもらいましょう。例えば’、「りんごとスプーンとお皿をちょう だい」などです。 コツ：「これから言う 3 つのものを取ってきてね」と前置き. をし、指で数えながら「本と馬と帽子をちょうだい」と言いましょう。
5.9 事前に何について話すかを伝えれば、 短い会話ができる	子どもと会話を始めると、何度もやりとりを続けることができます。例えば、「今日は どこへ行こうか」と尋ねると「公園」などと答えます。更に、「この前、公園へ行ったね」と続けると、「ママは滑り台で、私はブランコにのっ た」というように返答するかもしれません。それから「今日は滑り台で遊びたい」と言うかもしれません。	トピックを説明してから会話を始めましょう。「おばあちゃんの家に行った時の話だけ ど、私はとても楽しかった」などと言い、子どもの返信を待ちます。何も応答がない場合は「何が一番楽しかった？」のよう な質問をして会話を促しましょう。その後は、質問をせずに、また話題も変えずに数 回会話が続けられるか試しましょう。人の話を聞いて会話を続けることを習得する のは、重要な社交スキルです。言われたことに適切に答え、コメントする方法を知り、話題に集中することが出来るようになります。
5.10 同じ文の中に 3 つの指示を入れても、 それに従うことができる	指示を 3 つ一度に出しても、記憶してこなすことができます。例えば、、「おもちゃを片 付けて、手を洗ってから、台所の椅子に座ってね」や「コップを台所に置いて、カバン は部屋に片付けて、本を持ってきて」などです。 必ずしも順番通りにやる必要はありませんが、指示を繰り返すことなしでやれ ることが必要です。	「命令ゲーム」などを使って 3 つの指示を覚える練習をしましょう。例えば、「立ち 上がって手を叩いて鼻を触ろう」や「手を振って向きを変えてつま先を触ろう」などです。 コツ：覚えることが 3 つあると伝えましょう。「3 つのものをこれから言うよ。全部覚えられるかな」と言ったり、1 つ言う度に指で数えたりするのも 良いでしょう。このようなヒントは、聴覚的な記憶とリスニングへの集中力の 発達に役立ちます。

ステージ 5 : 会話や話を最後まで聞く		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
5.11 知っている物や動物について、ヒントを 出せばそれが何か当てることができる	あなたの頭の中で考えている物について説明すると、身振りのヒントがなくても答える ことができます。例えば、、「ある動物を考えているよ。それはヒレや尖った歯を持ってい て水の中を泳ぐよ」または「ある果物を考えているよ。それは黄色くて皮をむいて食べ るよ」などです。	「ものあてゲーム」をすることを説明して下さい。たくさんの描写をヒントに、推測でき るか確認しましょう。例えば、、「これは地面に生えていて緑色で、葉っぱがあって、枝 が出ているもの」や「これは牧場にいて『モー』と鳴く動物で、この動物から牛乳が取 れる」などです。 コツ：モノの発する音声を付け加えると、簡単な問題になります。音声ヒ ントなしでもわかるか試してみましょう。例えば、「これは農場にいて、泥が 大好きで色はピンク、尻尾がくるりと巻いている動物」（「ブーブー」と鳴き声 は出さない）。これにより、しっかり聞いて様々な聴覚情報をつなげることが できるようになります。
5.12 知っている 5〜6 語を使った文を正確に 繰り返すことができる	「昨日/は/サンドイッチ/を/食べた」や「チョコ/の/アイス/が/大好き/です」など真似し て言えるでしょう。ただし、全ての言葉をきちんと言えないかもしれません。	子どもが知っている言葉 5〜6 語を使って文を作りましょう。子どもの隣に座り、言う ことを繰り返すように伝えましょう。例えば、、「これから言うことを繰り返してね。『プール に行くのが好きです』」などです。 コツ：自分が話している時は自分を指し、子どもの番になったら子どもを 指しましょう。全部ではなく、一部だけしか言えなかったら、「もう一度言ってごらん」と促しましょう。

ステージ 5 : 会話や話を最後まで聞く		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
5.13 関連のある物の名前を 3 つか 4 つ言う と、その共通点がわかる	「丸、四角、三角、これらは…」「イチゴ、消防車、郵便ポスト、これらは…」などの 続きがわかります。	明らかに関連する物を幾つか考えましょう。違うタイプの物でも共通点があるもの を選びます。同じ用途で使われるもの（着る、食べる、乗るなど）、同じ形体の もの（丸い、黄色い、小さいなど）、同じ場所に住むもの（水中、森、牧場な ど）。これらのものには共通点があると伝えてもいいでしょう。 コツ：まず、自分で例文を言います。「魚、サメ、アザラシ、みんないる所 は…水の中だよね」「じゃあ次はわかるかな？車、バイク、トラック、これらはみんな…」。複数の情報を処理することで、生活に不可欠な聴覚処理能力と 理解力が養われます。
5.14 頼んだ 4 つの物を持ってくることができる	一度頼むだけで 4 つの違うものを持ってきてくれます。例えば、、「お椀とコップと塩と スプーンを取ってきて」や「船と車と電車と飛行機を取ってきて」などです。言われた順序通りに持ってくる必要はありませんが、ヒント無しで全てを覚えておく 必要があります。	支度や片付けは、聞き取り力をチェックするのに最適です。次回、おもちゃを片付 ける時は、4 つの物を片付けてもらいましょう。例えば、、「トラックと本とぬいぐるみと 車を片付けてね」。学校/園の支度の時は「お弁当と水筒と帽子をカバンに入れ てね」などです。最初に 4 つの物を頼もうとしていることを知らせましょう。もし子どもが 1 つだけ忘れたら、4 つ全てのものを繰り返し言いましょう。

ステージ 6 : 様々な日常生活での聴き取りを向上する

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
6.1 電話で身近な人と簡単な会話ができる	知っている人と電話で会話ができます。質問したり質問に答えたり、コメントしたり、 手助けなしで相手に物事を伝えることができます。	誰に電話をかけるのか聞いて、何について話すのかを一緒に考えてあげましょう。例 えば、「今日の水泳教室のこと誰に話したい？」などです。相手からの質問に子ども は答えることができますか？何を話すのでしょうか？やり取りは数回出来ますか？ コッ：電話をスピーカーに切り替えると、2 人の会話が聞けます。
6.2 ヒントを出すと、身近なものでなくても それが何か当てることができる	一般的ではないものを説明した時や、遠まわしなヒントを使って説明した時でも、 それが何かわかります。例えば、、「あるものを考えているよ。それは空にあって、熱と 光を出すもの」や「ある気持ちを考えているよ。あなたが大好きなおもちゃを失くした り、転んで怪我をしたりした時の気持ち」などです。	抽象的なものや、あまり身近でないものを考えることは、特に聞き取りの課題で は難しいかもしれません。なかなか当てにくいものについて、ヒントを出すから当て て欲しいと伝えましょう。（絵やおもちゃを視覚的なヒントとして使用せずに）例 えば、数字、概念、感情、アイデア、特徴、出来事などです。
6.3 一緒に本を読んだ後で、その本の話中で 起こった 4 つの出来事を正しい順序で 覚えている	新しいお話をした時、あなたや他の人にその話を伝えることができます。少なくとも 出来事を 4 つ正しい順番で言えます。	これから物語を読み聞かせるので、その話の中で起こった 4 つの出来事を正しい順 番で記憶して欲しいと伝えましょう。または、あなたの一日の出来事について話し、 起こった 4 つのことを正しい順番で言ってもらうと良いでしょう。
6.4 新しい単語が 1 つか 2 つ入っていても、 8~10 語の文を簡単に繰り返すことが、 できる	全ての言葉を知らなくても、8〜10 語の文章を正確に繰り返すことができます。あ なたの言葉と全く同じように言えないかもしれませんが、全ての言葉を真似しようと します。	子どもにこれから文章を読むので、繰り返して欲しいと伝えます。新しし沐や馴染み のない本から文章を選んだり、文章を自分で作ったりすることも出来ます。例えば、 「どの花も好きだけど、タンポポが一番好き」または「明日は 0〇ちゃんの誕生日だ からケーキを食べましょう」などです。聞く力が伸びるにつれて、聞いた情報の記憶量も増えます。また、聞いたことのな い新しい言葉も使いこなせるようになります

ステージ6 : 様々な日常生活での聴き取りを向上する		
	判定基準となる行動や動作	チェック方法
6.5 言い方によって文の意味が変わることを 理解している	言い方によって文の意味が変わることを理解しています。これは単語や文の一 部分の音程や強調によって変わってきます。例えば、最後のイントネーションをあげて「あなたはそれが好きだよね」と言うと質問になり、答えが必要ですが、音程 を変えずに「あなたはそれが好きだよね」と言うと答えは必要ありません。 「彼はシドニーへ車で明日は行かない」は、彼が別の日に車で行くことを意味し ます。「彼はシドニーへ車で明日は行かない」は、飛行機のような別の方法で行 くことを意味します。「彼はシドニーへ車で明日は行かない」は、彼は行かないが 誰かが行くことを意味します。	子どもが質問文かどうか言い当てられるのか確認してみましょう。イントネーションが上 がる文章も含め、いくつか文を伝えます。子どもはどれが質問なのかわかりますか？また、強調する言葉を変えることで文の意味が変わる場合、それを聞いた子どもの 返答が適切であるか確認しましょう。例えば、「私は」を強調して「私はここでりんご を食べない」では、「じゃあ誰が食べるの？」と聞くのが妥当でしょう。次に「私はここ でりんごは食べない」と強調する場所を変えてみます。妥当な返答は「じゃあ何を 食べるの？」です。また「私はここでりんご'を食べない」と言うと「じゃあ、どこで食べる の？」という返答になります。 話し手の言い方からヒントを得ることができれば、、会話が容易になります。それを誤認してしまうと話が'すれ、コミュニケーションが'難しくなります。
6.6 5 つ以上の分節で構成されている、 複雑な指示に従うことができる	指示を簡単にしたり、短くしたりしなくても、長い指示に問題なく従います。「部屋 に行って、引き出しから靴下を出して、履いてね」や「お風呂場にあるシャツと靴 下と短パンを洗面所の洗濯かご、に入れてね」また「ピンクの丸と青い三角を描い て、紙の下に名前を書いてね」などです。	子どもに何かをしてもらう時のことを考えてみましょう。長くて複雑な指示を出しても、 子どもはきちんとできますか？子どもが指示に従わないことが多いのは、聞いていない からではなく、聞きたくないからであると覚えておいてください。ですから、子どもがやりた いことを頼みましょう。「命令ゲーム」のような 4 つ 5 つの指示を入れるゲームや、ある いは子どもが何か欲しがっている時でも良いでしょう。例えば、、「靴とカバンを片付けて から、お皿を流しに入れてテーブルに座ったら、アイスを食べていいよ」などです。

ステージ 6 : 様々な日常生活での聴き取りを向上する

	判定基準となる行動や動作	チェック方法
6.7 テレビやタブレット、電話で聞いた 8~10 語の文を、新しい単語が 1 つか 2 つあっても簡単に繰り返すこと ができる	デジタル機器のアプリを使用したりテレビや映画を観たりしている時に、8〜10 語の文章を繰り返すことができます。言葉、特に新しい言葉は間違えることもあ りますが、全てを繰り返そうとします。	チェック方法は幾つかあります。テレビやデジタル機器からの長い文章を、子どもが繰 り返して言うのを聞くかもしれません。子どもが見ているものを一旦止めて「何て聞こえた？」と聞いたり、耳にした長い文章を順番に繰り返していくゲームをしたりするこ ともできます。 コツ：子どもの知らない幾つかの言葉を含む長い文章をデジタル機器に録・音して、文全体を繰り返し言えるか確かめてみましょう。
6.8 騒がしい場所でも、指示に従ったり、 会話したり、話を聞いたり、質問に答えるこ とができる	お店や公園、カフェ、学校などの騒がしし喝所で問題なく会話ができます。長い 指示に従ったり、話を聞いて、それについて意見したり質問に答えたりします。	実生活の環境は騒がしいものであり、その中での聞き取りは難しいこともあります。 スーパーやカフェなどの騒がしい場所にいる時、説明や話をしたりしている時、子どもは簡単にあなたの言っていることがわかりますか？何と言ったのか子どもは繰り返せ ますか？聞いた内容の質問に答えられますか？聞かずにボーっとしていませんか？ 子どもに聞くように促したり、話を繰り返したりしなければなりませんか？子どもが集 中するために、あなたは近くに行く必要がありますか？
6.9 騒がしい場所でも、電話で会話をしたり、デジタル機器からの音声を聞いたり、 質問に答えたり、その内容について話すこともできる	周囲が騒がしい場所（遊び場や風が強い屋外）にいる時、電話で話したり、レス トランやお店でデジタル機器の音声を聞き取ったりすることができます。その内容に ついての質問に答えたり、話したりすることによって聞き取れていたことがわかります。	デジタル音声は人の声よりも聞き取りにくく、雑音の多し喝所ではさらに難しくなり ます。騒がしい日常の環境で、どれだけデジタル機器の音声を聞き取れますか？ 電話での会話で適切なコメントや質問、応答ができる、または聞いた話や見た番 組についての質問に正しく答えられるか確認しましょう。 コツ：視覚からの情報ではわからない、聞いた情報からしか回答が得ら ・ れないことを質問にしましょう。

参考文献

Auditory Skills Checklist, (2004) Adapted by Karen Anderson, from Auditory Skills Checklist by Nancy S. Caleffe- Schneck, M.Ed., CCC-A (1992).

Auditory Skills Program, New South Wales Department of School Education.

Archbold, S., Lutman, M. E., & Marshall, D. H. (1995). Categories of Auditory Performance. Annals of otology, rhinology & laryngology. Supplement, 166, 312.

Cochlear Limited, Integrated Scales of Development. (2009)

Cole, E. B., & Flexer, C. A. (2007). Children with hearing loss: developing listening and talking birth to six: Plural Pub. Estabrooks, W. (1998). Cochlear implants for kids: Alexander Graham Bell Association for the Deaf.

Estabrooks, W., MacIver-Lux, K., & Rhoades, E. A. (2016). Auditory-Verbal Therapy: For Young Children with Hearing Loss and Their Families, and the Practitioners Who Guide Them: Plural Publishing.

Joint Committee on Infant Hearing of the American Academy of, P., Muse, C., Harrison, J., Yoshinaga-Itano, C., Grimes, A., Brookhouser, P. E., . . . Martin, B. (2013). Supplement to the JCIH 2007 position statement: principles and guidelines for early intervention after confirmation that a child is deaf or hard of hearing. Pediatrics, 131(4), e1324- 1349.

Ling, D. (1976). Speech and the hearing-impaired child: Theory and practice: Alexander Graham Bell Association for the Deaf Washington, DC.

E., Martin, B. (2013). Supplement to the JCIH 2007 Position Statement: Principles and Guidelines for Early Intervention After Confirmation That a Child Is Deaf or Hard of Hearing. Pediatrics, 131(4)

Pollack, D., Goldberg, D. M., & Caleffe-Schenck, N. (1997). Educational audiology for the limited-hearing infant and preschooler: An auditory-verbal program. Charles C Thomas Pub Limited.

Simser, J.I. (1993). Auditory-verbal intervention: Infants and toddlers. Volta Review, 95(3): 217-229.

Tuohy, J., Brown, J. and Mercer-Mosely, C., 2001, St. Gabriel's Curriculum for the Development of Audition, Language, Speech, Cognition, Trustees of the Christian Brothers, St. Gabriel's School for Hearing Impaired Children, Sydney, NSW, Australia.

Walker, B. (2009). Auditory Learning Guide

利用規約

本資料は臨床での使用を目的としており、Shepherd Centre 及び HEARing CRC を通して利用可能である。 本資料を複製する場合、Shepherd Centre、HEARing CRC や Cochlear Ltd の許可が必要である。

ご質問・お問い合わせ

お問い合わせ先 enquiries@hearhub.org

The Shepherd Centre
Giving deaf children a voice

THE HEARING CRC®

Cochlear®

FUNCTIONAL LISTENING INDEX – PAEDIATRIC (FLI-P®)

チェックシート

児童名: _____ **生年月日:** _____

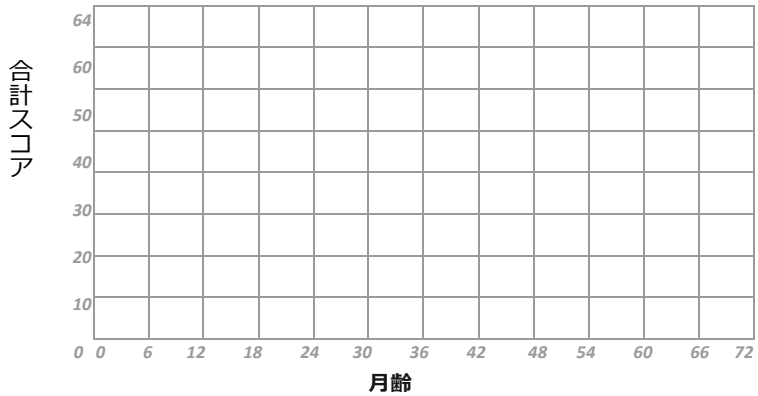
このフォームの使用方法

FLI-P®（Functional Listening Index）小児用には 6 つのステージがあります。ステージ 1 から始め、各項目の「まれに」または「大抵」に☑マークをつけていきます。各ステージの「大抵」のスコアをすべて合わせ、「合計」に記録します。左下の表の「合計スコア」は全ステージの合計スコアです。左下の表にスコアの合計と子どもの月齢、さらに保護者か医療従事者どちらがスコアを付けたのかも記録します。FLI-P® のチャートでチェックする際は、毎回、子どもの合計スコアと月齢の接点を右下のグラフに点で記入し、リスニング能力の経過を観察します。

ご利用の際は、ユーザーガイド、項目の詳細、および利用規約をご参照ください。

日付	合計スコア	子どもの月齢	保護者・医療従事者

FLI-P® リスニング能力の経過



	まれに	大抵	合計
ステージ 1：音に対する反応			
1.1 大きな音にビクッと驚く			/7
1.2 歌うように話しかけると、こっちを見たり微笑んだりする			
1.3 動物の声や乗り物の音を真似ると、少なくとも *3* つ *4* つの音を聞ける			
1.4 話し声や歌声、音楽を *20* 秒～*30* 秒間、音源がわからなくてもしっかりと聞く			
1.5 強調して出したリング *6* 音がすべて聞ける			
1.6 音が出ている方向がわかる			
1.7 ささやき声が聞き取れる			
ステージ 2：音と意味の関連づけ			
2.1 話しかけると、声で返す			/11
2.2 話しと歌の違いがわかる			
2.3 最低 *2* 人の家族の声がわかる			
2.4 テレビ、タブレット、電話から流れるお気に入りの歌や音楽がわかる			
2.5 童謡を *2*～*3* 曲続けて熱心に聞くことができる、または大好きな本の読み聞かせに *2*～*3* 分集中できる			
2.6 身近ないくつかの音が何の音か知っている			
2.7 グループでの会話で話している人の顔を見る			
2.8 よく歌っている童謡を聞くと、次にくるフレーズや振り付けがわかる			
2.9 顔が見えなくても、至近距離から普通の声で出すリング *6* 音を全て聞き取ることができる			
2.10 声を聞くだけで、喜んでいるのか怒っているのかわかる			
2.11 振り付けをせず、聞いただけで少なくとも *3* 曲の童謡を認知できる			

	時々	大抵	合計
ステージ 3：簡単な会話の理解			
3.1 聞き慣れた 3 つの音の真似ができる			/12
3.2 動作や身振りなしで単語や短い文を理解できる			
3.3 鳴き声など何かの音を 3～4 つ出した時に、何の音かわかる			
3.4 自分の名前がわかり呼ばれると呼んだ人を見る			
3.5 指で差さなくても、頼んだ物を取ってくる			
3.6 いくつかの言葉を真似して繰り返す			
3.7 リング 6 音の「ア」「ウ」「イ」「ン」を明瞭に繰り返す			
3.8 リング 6 音の「ス(ss)」と「シ(sh)」の違いがわかる			
3.9 大好きな歌の中の言葉を口ずさむ			
3.10 短い文や単語を 10 個理解できる			
3.11 身近な人やペットなど、名前を 3 つ知っている			
3.12 騒がしい場所でも自分の名前が呼ばれたことがわかる			
ステージ 4：様々な状況での言語理解			
4.1 その場とは無関係、又はおかしな短い指示に従う			/11
4.2 歌で最初に出てくる振り付けのみでなく、それ以降の振り付けも知っている			
4.3 2～3 語の簡単なフレーズを繰り返す			
4.4 よく聞く歌の一節を歌うことができる			
4.5 頼んだ 2 つの物を持ってくることができる			
4.6 1 つの文で 2 つの指示を出し、それに従うことができる			
4.7 「リング 6 音」の全ての音を正確に繰り返すことができる			
4.8 テレビやタブレット、スマホで聞く単語やフレーズを繰り返す			
4.9 あなたの言葉をほとんど正しく真似できる			
4.10 正確にリング 6 音の全てを 3 メートル以上離れていても繰り返すことができる			
4.11 テレビやタブレット、電話からの質問や指示に従ったり、答えたりできる			
ステージ 5：会話や話を最後まで聞く			
5.1 電話で身近な人の声がわかる			/14
5.2 どこで覚えたのか分からない驚くような言葉を言う			
5.3 見える範囲にある「もの」の説明をすると、それが何なのかわかる			
5.4 見慣れた本で内容の説明をするとそのページがわかる			
5.5 よく聞く歌をだいたい歌うことができる			
5.6 大好きなおもちゃや遊びについての簡単な質問に答えることができる			
5.7 発音が似ている単語の違いを聞き取り、それによって意味が変わることを理解する			
5.8 頼んだ 3 つの物を一度に持ってくることができる			
5.9 事前に何について話すかを伝えれば、短い会話ができる			
5.10 同じ文の中に 3 つの指示を入れても、それに従うことができる			
5.11 知っている物や動物について、ヒントを出せばそれが何か当てることができる			
5.12 知っている 5～6 語を使った文を正確に繰り返すことができる			
5.13 関連のある物の名前を 3 つか 4 つ言うと、その共通点がわかる			
5.14 頼んだ 4 つの物を持ってくることができる			
ステージ 6：様々な日常生活での聞き取りを向上する			
6.1 電話で身近な人と簡単な会話ができる			/9
6.2 ヒントを出すと、身近なものでなくてもそれが何か当てることができる			
6.3 一緒に本を読んだ後で、その本の話中で起こった 4 つの出来事を正しい順序で覚えている			
6.4 新しい単語が 1 つか 2 つ入っていても、8～10 語の文を簡単に繰り返すことができる			
6.5 言い方によって文の意味が変わることを理解している			
6.6 5 つ以上の分節で構成されている、複雑な指示に従うことができる			
6.7 テレビやタブレット、電話で聞いた 8～10 語の文を、新しい単語が 1 つか 2 つあっても簡単に繰り返すことができる			
6.8 騒がしい場所でも、指示に従ったり、会話したり、話を聞いたり、質問に答えることができる			
6.9 騒がしい場所でも、電話で会話をしたり、デジタル機器からの音声を聞いたり、質問に答えたり、その内容について話すこともできる			

FUNCTIONAL LISTENING INDEX – PAEDIATRIC (FLI-P®)

利用規約

小児用リスニング指標（FLI-P®）は、日常生活における子どもの聞き取り能力の把握とモニタリングを支援するために設定されまし た。新生児から 6 歳までの子どものご両親、介護者、医療専門家のために開発され、HEARing CRC とシェパードセンターが 2013 年から行っている臨床研究に基づいています。

使用方法：

1. 子どものスキルを確認するために、1.1 から各項目について各 設問を実施します。点数、テストの日付、子どもの月齢、誰 が実施したかを記録します。FLI-P®のリスニング能力の経 過のグラフに子どもの点数を記入し、進捗状況を確認しま す。
2. 各ステージには、子どものリスニングに関する質問がリストにな っています。各項目で「大抵」できるか「まれに」なのか考えまし ょう。
   a. 「大抵」とは、子どもは定期的に、様々な場所で、いろいろな人 とできたことを意味します。
   b. 「まれに」とは、頻度が少なく、たまにする、または全くしないこと を意味します。

   子どもは様々な方法で聞き取り能力を身に着けますが、言葉や 音をどれだけ聞いたか、どのような経験を積んだかによっても左右 されます。ステージを進めていく際に、ある項目で「まれに」にチェッ ク が入っていても、さらに下の項目で「大抵」にチェックが入ることも あります。「まれに」にチェックが入る項目があったとしても、そのまま続けてください。
3. 「まれに」（またはできない）のチェックが 6 つ連続で入ったら、そ こで止めます。2、3 カ月後に再びチェックしますが、子どもの進行 状況が気になる場合はもっと早めに行います。
4. 前回、最初に「まれに」と回答したところから 4 項目前に戻 り、そこから開始します。例：最初の「まれに」のチェックが項 目 1.7 であった場合。次回は 1.3 から始めます。
5. 不明な点がある場合は、配布資料の「項目の詳細」を参照 してください。それぞれの聞き取り能力の判断基準の詳細が 記載されています。
6. FLI™-P は聞き取り能力を測定するものなので、視覚からの ヒント（読唇術やジェスチャー、視線など）を使用しないよう にしてください。
7. 「まれに」というスコアもあることも忘れないでください。 通常、 必ずどこかで「まれに」にチェックをいれることになるので、気にし ないようにしてください。　　その項目が今後の取り組むべき課題
   に対する良い指標となります。

• FLI-P®ユーザーガイドには、FLI™-P を使用する際に役立つ 詳細情報が記載されています

FLI-P®のユーザーガイドには、FLI™-P を使用する際に役立つ詳細情報やよくある質問も掲載されています。イ使用方法、リサーチ、検 証、そして現在の研究への参加についてのお問い合わせは、シェパード•センター （enquiries@shepherdcentre.org.au）までご連 絡ください。

小児用リスニング指標（FLI-P®）は利用規約に従って使用してください。

Functional Listening Index - FLI®の利用規約

シェパードセンター および HEARing CRC （以下、「弊社」と表示）は、子どもの聞き取り能力の評価を希望する医療関係者およ び家族（以下、「貴方」という）を支援するために、Functional Listening Index 評価ツール（FLI®および FLI-P®と略称され る、小児用聴力指標）を開発しました。これらのツールに含まれる知的財産（著作権）は、関係者一同が共同で保持しています。

Cochlear （コクレア社、人工内耳メーカー）は、これらのツールの開発を支援しています。

これらのツールを以下の規約に沿って使用することを条件に、使用許諾を提供します。

1. 以下に記載されているように、弊社はいかなる保証も提供せず、また弊社がいかなる責任も負うことなく、自身の責任において使用す ることに同意されるものとする。
2. 以下に定義するように、貴方がコクレア社の競合他社である場合、これらのツールを複製することを禁じるものとする。
3. 本ツールの知的財産は弊社が所有し、貴方が本ツールを使用しても、これらの知的財産に対する所有権または権利は貴方に付与さ れないことに同意するものとする。
4. 貴方は記載されている通りに本ツールを使用し、設定や内容を変更しないものとする。
5. 文書による明確な許諾がない限り、本ツールを商業目的で利用することは禁じるものとする。
6. 本ツールを使用し作成されたデータを公開する場合、そのデータを含むすべての資料、出版物、プレゼンテーションに FLI-P®を適切に 表示するものとする。

書面による許可なく、これらの規約を変更することはできません。本ツールの利用規約に関するお問い合わせは enquiries@shepherdcentre.org.au までお寄せください。

これらのツールは、難聴児とその聞き取り能力の発達に関する専門的な経験に基づいて開発されました。他の評価方法に対する併存的 妥当性の検証および収束的妥当性の検証を行い、難聴児の間で差異が生じる可能性が明らかになりました。このツールは、難聴児のそ の後の言語能力の予測に有効であり、難聴児の臨床管理にも有益であることも示されています。これは医学用、診断用のツールではあり ません。医療規制当局による査定や承認もなく、当局の監督下に置かれているわけでもありません。また 医療上のアドバイスを提供する ものでもありません。

子ども一人一人に対し、このツールが適していることを保障するものではなく、弊社はその使用価値も保証することはありません。情報提供 はできますが、難聴や言語発達の遅れや障害を診断するものではありません。このツールは、今後の研究や使用経験の進展に応じて変 更する予定はありますが、ツールの更新や現在のツールの使用を提供し続けることを弊社が確約するものではありません。これらのツールの 使用、または子どもの臨床管理に取り入れる場合は、各自の判断で行ってください。このツールの使用を決定した場合、その使用によるい かなる結果に対しても、法律の範囲内において、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。コクレア社、人工内耳の競合他社と は、以下のように定義されます：

a.コクレア社またはコクレア子会社の事業と直接競合する企業、またはその事業活動に従事している（またはその所有権または支配権 を有している）、及び、聴性脳幹インプラント、人工内耳、骨伝導デバイス、または中耳デバイスを含むがこれに限定されない、

b.聴覚機能治療用機器の製造業社または販売業社に従事している個人、会社、企業、パートナーシップ、ジョイントベンチャー、団体、 または政府機関。

The Shepherd Centre (ABN 61000699927), of 146 Burren St, Newtown NSW 20142, Australia

The HEARing CRC Limited (ABN 94123522725) of 550 Swanston St, Carlton Victoria 3053, Australia

Cochlear Limited (ABN 96002618073) of 1 University Avenue, Macquarie University NSW 2109, Australia